

## 第5次江東区地域福祉活動計画 推進評価委員会評価（令和6年度評価）

### I-① つながるきっかけを作ろう

多世代が交流する場を広げていく取組みが続いている点が評価できます。また、学校と地域の法人などが協力し合って、こどもたちとの交流が地域活動として根付き始めていること、こどもたちの主体性を育む取組みが行われていることも評価できます。

一方で、住民同士の会話やつながりが減り、情報の伝わりにくさや活動の継続性が課題となっています。今後は、地域のお祭りやイベントで福祉の取組みを紹介したり、小中学生が清掃や交流などに継続的に参加できる仕組みを整えたりして、誰もがつながりやすい地域づくりが進んでいくことを期待しています。

### I-② つながる場を作ろう

世代をこえて誰もが楽しめるレクリエーションや交流・集いの場を大切にしていることが評価できます。社協カフェやサテライト、まちづくり話し合いひろばなどが、相談や交流のきっかけとなり、社協が地域を「つなぐ」役割を果たし始めていることも評価できます。

一方で、お祭りや防災訓練などで顔を合わせる機会が減り、町会活動が衰退傾向にあることや集合住宅におけるつながりが不足していることが課題です。今後は、スポーツや防災訓練等のイベントを通じた交流の機会をつくること、集合住宅での居場所づくりなど、長く続くつながる場が広がっていくことを期待しています。

### I-③ つながる仕組みを活用しよう

世代をこえた交流を通じて相互理解を深め、高齢者や地域で孤立している人への支援を続けることが評価できます。社協カフェやサテライトが場所の提供にとどまらず、地域住民に安心感を与え、つながる仕組みとなり、「社協に行けば相談できる」という安心感が広がっていること、多世代をつなぐ交流拠点として機能していることも評価できます。

一方で、独居高齢者とのつながりが不十分であることが課題です。今後は、SNSやICTを活用した新たな情報発信や交流の仕組みづくりを含め、学校や地域活動団体、各種団体・企業などと連携しながら、単発のイベントから継続的な地域活動へつながる仕組みへと広がっていくことを期待しています。

### II-① 思いやりの心を育てよう

小学生の頃から福祉を学ぶ機会を大切にし、次の世代を育てる取組みは、地域の未来を支える人を育てるという点においてこれかも大切な取組みであり、評価できることです。

一方で、社協の事業は高齢者や障がい者を中心とした内容が多く、こども分野への取組みが十分とはいえません。今後は、小中学生の地域参加を清掃や交流などをきっかけに様々な形で広げいくこと、学校での福祉講座や事前・事後学習を充実させることなど、こどもたちの思いやりの心を育て、将来の地域の担い手として育つ環境が整っていくことを期待しています。

## II-② 地域で助け合おう

地域の多世代交流の場や募金活動等でこども世代との接点をつくり、世代を超えた助け合い活動を広げる取組みを行っていることが評価できます。

一方で、災害協力隊の不在や団体・企業との連携不足等により、災害発生時に避難行動要支援者を取り残される可能性があること、こどもや若者の活動への参加が単発的で地域全体への広がりが不十分であることなどが課題です。地域づくりの中心は区民です。今後は、区民一人ひとりが、住民主体の助け合い活動の取組みを広めながら、企業や団体・地域活動団体とも連携し、こども・若者世代が地域活動に参加する取組みを社協などが中心となって作っていくことで、地域で助け合う機運が高まっていくことを期待しています。

## II-③ 人材を育成しよう

小中学生への福祉体験授業、出前講座等を積極的に行うことだけでなく、新たにボランティア養成アカデミーを実施する等、将来の地域活動の担い手を育てる取組みを行っていることが評価できます。

一方で、支援者やリーダー・役員の高齢化、担い手の不足など、次世代の担い手育成が急務となっていることが課題です。今後は、小中学校での福祉教育等を継続して実施するだけでなく、各種講座を発展・充実させること、災害協力隊への参加を促す仕組みや、学生との連携・協力などを通じて、人材の発掘と次世代の担い手の育成をさらに進めていくことを期待しています。

## II-④ ボランティアや地域貢献活動を推進しよう

ミニデイでのボランティア活動や、生徒による地域清掃、イベントやCSR活動との連携を通じてこどもや若者の間にボランティアや地域貢献活動への認知度が高まりつつあることが評価できます。

一方で、ボランティアの高齢化や担い手不足が深刻化し、活動の継続が難しくなっていることや、活動の魅力を伝える機会が限られていることが課題です。今後は、地域の祭りやイベントでのPR、福祉講座や災害ボランティア養成講座等を通じた次世代の担い手育成、学校や地域団体との連携を通して、ボランティアや地域貢献活動が助け合い活動へと広がっていくことを期待しています。

## III-① 安心して暮らせる環境を整えよう

つながりづくりへの支援や多世代交流の普及といった安心して暮らせる環境を整える取組みが地域の中で進んでいることが評価できる点です。

一方で、日常的なつながりが不足しており、対話による情報伝達の必要性、支援者のメンタルサポート体制の不足、災害協力隊の不在や民生児童委員の認知度低下、次世代への活動継承の弱さなど様々な課題があります。今後は、町会・自治会や団地などでの定期的な防災訓練をはじめ、スマートフォン教室の開催、募金活動、生徒・学生との協働した活動の展開など、様々な機会を通じて、安心して暮らせる環境が整っていくことを期待しています。

### Ⅲ―② 一人ひとりの権利を尊重しよう

福祉サービスに関する情報提供や利用援助、権利擁護・成年後見制度などに関する総合的な相談件数が増加しており、関係機関と連携しながら権利擁護支援に取り組んでいる点が評価できます。また、日常生活自立支援事業においては、本人の意思を丁寧に確認し、関係者と共有・連携することで、地域で本人が望む生活を実現できるよう支援している点も評価できます。

一方で、地域課題として支援者や関係者のメンタルサポート体制が十分でない点が挙げられます。今後は支援する側の心身の健康を守る仕組みなどをはじめ、安心して活動できる環境づくりを進めていくとともに、地域全体で支え合いながら、さらに一人ひとりの権利を尊重する地域になっていくことを期待しています。

### Ⅲ―③ 地域福祉の基盤を整備しよう

地域福祉活動計画の評価を「よい点」「継続点」から推進・評価委員で共有し、前向きな姿勢で話し合う進め方を重視していること、サテライト開設による拠点の整備をはじめ、中間支援組織を担う等、地域福祉の基盤として役割を社協が果たし始めていることが評価できます。

一方で、災害時の住民避難の不安、職員の負担、こども分野への取組み不足、次世代への継承の弱さ、町会活動の衰退など課題は様々です。今後は、地域福祉コーディネーターによる個別支援・地域支援のあり方や、地域との関わり方について、地域の実情に応じて検討・研究していくことが求められます。あわせて、SNS や ICT を活用した情報発信、企業・団体との連携、地域団体やこども・若者世代を巻き込む仕組みづくり、募金活動などを通じて、地域のつながりをつくり、地域福祉の基盤がさらに整備されていくことを期待しています。